

第2回 すくわくプログラム

透きとおる海のキャンバスで、泳ぎだす命たち



今月のすくわくプログラムは、「透明ビニールシートをキャンバスにして、水の生き物を描く」がテーマです。お部屋いっぱいに広がる透明のビニールシートは、まるで海中にいるような幻想的な空間をつくり出しました。絵の具やマーカーを使って、子どもたち一人ひとりが思い描いた“自分だけの海の世界”をのびのびと表現。クラゲ、サメ、タコ、色とりどりの魚たちが、シートの上をいきいきと泳ぎはじめました。いつものお絵かきとはまったく違う体験に、発見と驚きがつづり詰まった時間となりました。

東京都のすくわくプログラムについて詳しくはこちら → <https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/>



4歳児クラス 光の向こうに、ほくの魚が泳いでる

「先生、ここに魚がいるよ!」「クラゲがふわふわしてるよ!」すみれ組の子どもたちは、透明なキャンバスに戸惑いながらも、少しずつ筆を走らせていきます。描いているうちに、「光が通るから、ほんとに泳いでるみたい!」と新たな気づきに大喜び。絵の具が透けて混ざり合う様子や、背景の景色が絵と重なる様子が感動しながら、絵の世界がどんどん広がっていきました。中には、「わたしの海にお友だちも入っていいよ!」と、共同制作を始める子も。「描く」ことを通じて、「見る」「気づく」「共有する」力が自然と育まれていました。



5歳児クラス この海には、やさしいサメがいるんだ

「この魚は家族で泳いでるんだよ」「ほくの海には宝物があるんだ」ひまわり組の子どもたちは、描き始める前から海の中の物語を語りはじめます。ただ写すのではなく、「どんな世界をつくりたいか」というビジョンを持って制作に取り組む姿に、5歳児らしい想像力と構成力の成長を感じました。「イルカが友だちに会いに行くんだ」「ここにサンゴのおうちがあるよ」と、それぞれの海に意味やストーリーが込められており、作品を通して心の中の世界があふれ出すようでした。創作後には、自分の作品をお友だちに紹介する発表会も行い、言葉で伝える力も自然と育まれました。



透明なキャンバスは、子どもたちにとって“空白の海”。だからこそ自由に、そして深く、想像の翼を広げることができたのかもしれない。これまでの絵画活動とは異なる視点や素材との出会いが、「描く」ことの面白さや、「伝える」ことの喜びを再発見するきっかけになってくれたように感じます。子どもたちの内なる海が、これからどんなふう広がっていくのか一楽しみです。



「すくわくプログラム × 協働アート活動」 始まりました

しおどめ保育園稲城では、今年度から東京都が実施する「すくわくプログラム」に参加しています。このプログラムは、都内の幼児教育・保育施設を対象に、子どもたちの好奇心や創造力を育む多様な体験活動を提供するものです。6月の第一回活動では、4歳児・5歳児クラスが協働アート活動に取り組みました。プロのアーティストの指導のもと、大きな布をキャンバスに、絵の具を使って手や指、スポンジなどで自由に表現し、クラスごとに1つの作品を完成させました。お友だちと協力しながら、一人ではできない制作の楽しさを味わっていました。
東京都のすくわくプログラムについて詳しくはこちら → <https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/>



4歳児クラス 絵の具にさわってべたんと手形。初めての表現あそび

4歳児クラスでは、真っ白な布を見て「これに描くの？」と興味津々の様子。絵の具を手にとると、「この色とこの色、混ぜたらどうなるの？」と色の変化に驚いたり、夢中になって試したりする姿も見られました。手のひらに好きな色の絵の具をのせ、「べたん」「ぐるぐる」と自由に手を動かして描いていきました。描くというよりも、絵の具に触れながら遊ぶような感覚で、楽しそうに取り組んでいました。完成した作品には、手形や模様がたくさん並び、にぎやかで明るい印象の木ができあがりました。活動後は「もっとやりたい!」「また描きたいね」と声があがっていました。



5歳児クラス 「どうやって描こうか？」相談しながら、一緒に作り上げました。

5歳児クラスでは、はじめに「どうやって描く?」「木って何色かな?」といった話し合いからスタート。幹や枝、葉の位置や色を子ども同士で考えながら、少しずつ描き進めていきました。手のひらだけでなく、指先や足の裏なども使って（こどもの発想ってすごい!）、色を重ねるなど工夫する姿が見られました。最後まで集中して取り組み、「この辺は〇〇ちゃんが描いたね」「ここに葉っぱがついてるよ」と完成後も作品を見ながら会話がはずんでいました。



すくわくプログラムでは、今後も年間を通してさまざまな活動を予定しています。今回のようなアート体験を通して、子どもたちの表現力や協調性を育むきっかけになればと思います。次回以降の活動も、子どもたちの成長の一場面として楽しみにしています。今後の取り組みも、どうぞお楽しみに！（いなドメ編集部）